

静岡水技研研報(50): 44-47, 2017
Bull. Shizuoka Pref. Res. Inst. Fish. (50): 44-47, 2017

抄 録

南方遠洋カツオ竿釣り漁業における漁場予測

石田孝行^{*1}・増田 傑^{*2}

黒潮の資源海洋研究 第17号, 9-16 (2016)

過去の人工衛星による海況条件と遠洋竿釣り漁船のカツオ漁獲量の関係から、一定の海域や期間ごとに漁場予測指標を作成した。漁場予測システム「大漁案内人3」を用い、3日後の海況シミュレーション情報（水温・海面高度・塩分等）をもとにHSI手法による漁場予測図を作成し、週1回の頻度で遠洋竿釣り漁船に試験発行した。

南方カツオ漁期における予測図の的中率は、2014年1～4月（全12回発行）は漁獲位置と予測域が一部でも重なる場合が50%、緯度経度1度以内の範囲にある場合が33%であった。また、2014年11月～2015年4月

（全23回）は同じ区分で22%、52%であった。

1997年以降の南方カツオの月別の漁場位置を比較すると、ラニーニャ期の12月とエルニーニョ期の12月では、漁場位置が緯度方向に異なる特徴が見られた。今後、エルニーニョなどの大規模な海洋変動と漁場形成への影響を考慮しながら予測図の的中率向上を図る必要がある。

^{*1}静岡県水産技術研究所

^{*2}静岡県漁業高等学園

A quick method for estimating egg density in sample bottle from fishery stock survey

Masatoshi Hasegawa^{*1}, Toshihide Kitakado^{*2}, Shigehide Iwata^{*2}, Eiji Tanaka^{*2}

Bulletin of the Japanese Society of Fisheries Oceanography, 72(2), 115-123(2016)

A rapid assessment of surveys of egg production of a fishery stock, such as the Japanese anchovies *Engraulis japonicus* or Japanese sardines *Sardinops melanostictus*, is one of the information necessary for predicting of the daily catch in the local whitebait fishery. We proposed a sequential combined method that consists the method of Most Probable Number (MPN) and a direct-count in order to reduce the time required to obtain unbiased estimate of the egg densities of the samples. In the method, the mean of egg density is estimated by the MPN if the density is

low, but is done by a combination of the MPN and the direct-count if it is high. Effectiveness of the method was evaluated by simulation using the survey data of the Japanese anchovy in Suruga Bay. The results showed that the method provides good estimates of the true mean saving the time. We discussed about the application of this method.

^{*1}Izu Branch, Shizuoka Prefectural Research Institute of Fishery

^{*2}Tokyo University of Marine Science and Technology

静岡県内浦湾における中層網式母藻移植によるガラモ場回復の試み

尾形梨恵*¹・高木康次*²・御宿昭彦*²・藤田大介*¹

水産工学 52(3) 177-184 (2016)

ガンガゼの食害によりガラモ場が衰退している伊豆半島の内浦湾南岸域に、10m×10m試験区を設け中層網を用いて大量のマメタワラ幼胚を散布するとともにユニフェンスによりガンガゼの侵入防止の徹底に努めた。その結果、少数ではあるが防護区内の海底で初めてマメタワラを成長させることができた。防護区内にはマメタワラ以外に14種の海藻が出現したが、防護区外には海藻は出現しなかった。防護区周辺に出現したガンガゼ以外の藻食性動物は、腹足類のギンタカハマ、ウラウズガイや魚類のアイゴであった。中層網は移植母藻の密度を高く魚類の食害からも保護されやすいた

め、穏やかな内湾で大量の母藻が入手できる場合には効率的な「タネ不足」の解消方法となる。また、ユニフェンスは防護区へガンガゼの侵入を抑制し、マメタワラ幼体の生残に重要であるが、水温が上昇してガンガゼが活発に活動する7月～9月には防護機能を維持することは困難である。そのため、瀬切りなどでより広い範囲でガンガゼの密度を低下させる取り組みが期待される。

*¹東京海洋大学応用藻類学研究室

*²静岡県水産技術研究所伊豆分場

1982年以降の伊豆東岸定置網におけるスルメイカ漁獲変動

長谷川雅俊*・鈴木勇己*

スルメイカ資源評価協議会報告（平成27年度），11-16(2016)

1982年以降の伊豆半島東岸の大型定置網におけるスルメイカの漁獲変動を明らかにした。漁獲量は1982年以降顕著な増加傾向を示し、1月に伊豆半島南部の定置網に集中的に入網するように変化してきた。漁獲量は、東北・道東海域に分布するスルメイカ冬季発生

系群の資源量と正の相関が認められた。伊豆東岸の漁獲量が1989年以降高水準を維持しているのは、スルメイカ冬季発生系群が増大した影響と考えられる。

*静岡県水産技術研究所伊豆分場

太平洋におけるブリ成魚の自然死亡

長谷川雅俊*

黒潮の資源海洋研究, 17, 81-85(2016)

太平洋側におけるアーカイバルタグを利用したブリ成魚の標識再捕データから自然死亡を検討した。このデータには放流日と再捕日が示されており、再捕時間が明らかな打ち切り標本として自然死亡係数を推定した結果、自然死亡がないモデルが採用された。ブリは

成魚段階では自然死亡は非常に少なく、非ブリ網期の漁獲率は小さいもののブリ網期の漁獲率は相当大きいという動態を示すと考えられた。

*静岡県水産技術研究所伊豆分場

卵稚仔調査標本に対する迅速評価手法の提案

長谷川雅俊*

中央ブロック卵・稚仔，プランクトン調査担当者協議会研究報告，36，178-184(2016)

イワシ類シラスなどの漁況予測において，予測要因として卵稚仔分布量の把握は重要である。卵稚仔分布量の把握を迅速に行うため，卵稚仔調査標本のクイックアクセスメントの手法を開発した。その手法を逐次結合法と名付け，その数理統計的側面は別報で詳述した

が，ここでは逐次結合法の概要，実際の使い方を紹介した。

*静岡県水産技術研究所伊豆分場

相模湾における定置網漁業の漁獲量と魚種組成の推移 (1) 伊豆東岸域

鈴木勇己*・長谷川雅俊*

第39回「相模湾の環境保全と水産振興」シンポジウム—相模湾の定置網漁業の現状，課題と今後の方向について—

水産海洋研究 第80巻 第2号 174-176 (2015)

定置漁業は，積極的に特定の魚種を狙う漁業はないため，入網する魚種組成の変化が漁業経営に与える影響は非常に大きい。そのため，魚種組成の変遷の把握は非常に重要である。そこで本報告では，伊豆半島東岸大型定置網における漁獲量および主要魚種の推移を検討するとともに，漁獲魚種33種38銘柄について，出現パターンの傾向をみた。

大型定置網1ヶ統当たりの平均漁獲量は，1982～2014年にかけて増減を繰り返しながら，約400トンから700トンまで増加しており，その増減パターンは，さば類やいわし類，マアジなど主要魚種の漁獲量に同調する傾向にあった。魚種別漁獲割合の推移をみると，

1980年代はブリ，サバ類，マイワシ，ウマヅラハギ主体，1990年代はマアジ，サバ類，マイワシ主体，2000年代はマアジ，サバ類，カタクチイワシ主体，2010年代はサバ類，カタクチイワシ，スルメイカ，マルソウダ主体であった。また，出現魚種33種38銘柄を年別漁獲量を元にクラスター解析を行った結果，6つのグループに分類された。解析結果と各魚種の年別漁獲量の標準化変数を比較すると，6グループは漁獲量の増減パターンに基づいて分かれていると考えられた。

*静岡県水産技術研究所伊豆分場

Sorus formation on the holdfast haptera of the kelp

Ecklonia radicata (Phaeophyceae, Laminariales)

Shingo Akita^{*1}, Hirokazu Yamada^{*2}, Madoka Ito^{*2}, Michael H. Graham^{*3} and Daisuke Fujita^{*1}

Botanica Marina, 59(6), 433-438, 2016

Kelps usually form sori on their vegetative blades or sporophylls, and occasionally on stipes, with a notable exception being the primitive kelp *Aureophycus aleuticus* (Aureophycaceae), which forms sori on its discoid (haptera-free) holdfast. Here we reveal sorus formation on the holdfast (and blade and stipe) of the warm temperate annual kelp *Ecklonia radicata* (Lessoniaceae), whose holdfast is formed by haptera, as is typical of the Laminariales. Surprisingly, hapteral sori

continued to release zoospores until December, following blade loss in October. Such production of sori on holdfasts may be advantageous for surviving higher water temperatures and grazing pressure in warm temperate waters.

*¹東京海洋大学応用藻類学研究室

*²静岡県水産技術研究所伊豆分場

*³Moss Landing Marine Laboratories

静岡県のウナギ養殖の特徴 大型化・生産工程管理・観光

水越麻仁^{*1}

養殖ビジネス, 53(12), 14-16 (2016)

養鰻業が許可制となりシラスウナギの池入量に上限が設けられた中で、静岡県水産技術研究所では、生産量を維持する一手法として、養殖ウナギの大型化（以下大型ウナギ）とその利用方法を検討した。地元の洋食・中華・和食といった料理店での利用を想定し、浜名湖養魚漁業協同組合と共同で、大型ウナギを用いた業務用素材を開発した。今夏からは、浜名湖養魚漁業協同組合がこの素材を市販することとなり、フレンチ、イタリアン、中華、和食など、各種の料理店において、メニューの提供が開始された。

近年、消費者や販売店からは生産過程に関する情報の提供が求められている。この声に応える形で、県内の2つの養鰻組合では、それぞれ独自に流通や生産過程の透明化、安全・安心な生産物の供給に取り組んでおり「しずおか農林水産物認証制度」の基準に基づいて

認証された管理システムを適用した生産の指導、集荷及び、出荷を行っている。

生産現場と消費者とをつなぐ取組として、平成26年度から、静岡県西部の養鰻業者が、自身の養鰻場にて観光客の受け入れを開始した。この取組は「浜名湖うなぎ探検隊」と称し、養鰻業者が浜名湖の養鰻業の歴史や養鰻経営について説明する他、実際の養鰻施設の無料見学やウナギに触れられる観光体験として行っている。観光客からは、ウナギ養殖の実態について知る良い機会が得られたと好評で、消費者が生産現場に足を運び、直接交流することのできる場として期待されている。

^{*1}静岡県水産技術研究所浜名湖分場

関東近海のさば漁業について（平成28年の調査および研究成果）通算49号

一都三県さば漁海況検討会：千葉県水産総合研究センター、静岡県水産技術研究所、
神奈川県水産技術センター、東京都島しょ農林水産総合センター(平成28年12月)

たもすくいの操業は、1月6日に三本でゴマサバを対象として始まった（ゴマサバ1夜1人69kg）。1月末に水温19℃前後の三本周辺海域にマサバ主体の漁場が形成され、今漁期のマサバ初漁日となり（マサバ1夜1人2,278kg）、2月上旬まで好漁が続いた。2月中旬以降は水温が低下し、漁況は低調となったが、3月以降暖水波及により昇温した銭洲海域にマサバ漁場が形成された。銭洲海域には4月中旬まで安定したマサバ漁場が形成され、同海域に継続してマサバ漁場が形成されたのは1978年漁期以来38年ぶりのことであった。4月下旬にはゴマサバの割合は100%近くを占めるようになり、マサバ主体の操業は終漁となった。漁期を通したマサバCPUEは12.8トン/隻・日で、比較に当たっては

漁船規模の違いを考慮する必要があるが、豊漁だった1977～1981年漁期の平均に準ずる高い水準であった。

棒受網の操業は、たもすくいに転向した1月下旬から4月下旬の期間を除き、年を通して行われた。漁場は三宅島周辺海域に形成された。2014年下半年期における静岡県主要4港へのゴマサバ水揚量は2,556トン、CPUE20.6トン/隻・日で水揚量、CPUEともに前年を下回った。なお、マサバの水揚げはなかった。2015年上半年期における静岡県主要4港へのゴマサバ水揚量は2,067トンで前年を下回ったが、CPUE22.1トン/隻・日は前年と同程度であった。マサバ水揚量は1トン未満であり、前年を下回った。

記 事

静岡県水産試験研究機関技術連絡協議会

第246回 平成28年2月25日 於：水産技術研究所

[研究発表]

- 1 新成長戦略研究「新たなウナギ産業の創出」について
浜名湖分場 青島秀治
- 2 大型異種ウナギの加工方法について
開発加工科 隈部千鶴[○]
ラ・カンティーナ 後藤正哉
- 3 隣接した小河川におけるウナギの資源構造と水温との関連
富士養鱒場 鈴木邦弘[○]・木南竜平・佐藤孝幸・
鈴木基生・平井一行
伊豆分場 川合範明
水産資源課 松山 創
資源海洋科 増元英人
- 4 魚肉を使った新規発酵食品の開発
開発加工科 山崎資之
- 5 静岡県沿岸域における地先定線観測水温の長期変化
資源海洋科 高木康次
- 6 フィッシュソリユブルによるサバ棒受網漁業の代替餌料開発について
資源海洋科 中村健太郎
- 7 血抜き・活締めによるサワラの価値を磨く取組み
普及総括班 吉川康夫
- 8 キンメダイ親魚養成の試み
深層水科 中村永介
- 9 サガラメの簡易移植技術の開発
深層水科 永倉靖大
- 10 低魚粉飼料を用いたニジマス系統間雑種F2の長期飼育
富士養鱒場 木南竜平[○]・渡邊 清・鈴木基生
深層水科 中村永介
水産資源課 松山 創
- 11 太田川河口域におけるトラフグ人工種苗の放流後の生態
浜名湖分場 吉田 彰
- 12 メタン発酵消化液を用いたスジアオノリの陸上養殖の可能性
伊豆分場 山田博一
- 13 伊豆半島東岸における定置網漁業の漁獲量と魚種組成の推移
伊豆分場 鈴木勇己

[研修]

「研究活動における不正行為への対応等に関する規程」に基づく研修

第247回 平成28年5月20日 於：伊豆分場

[特別研修]

「漁況予測のための卵稚仔調査標本に対する迅速評価手法の開発」

伊豆分場

長谷川雅俊

[研究発表]

- 1 “くすぐり法”によるさけます類の性判別とその応用による性転換オスの新規作出法
 富士養鱒場 木南竜平[○]・佐藤孝幸
- 2 市場調査によるカサゴ放流種苗の再捕結果と放流効果
 深層水科 山田博一[○]
 伊豆分場 高木康次
- 3 キンメダイの鮮度低下に伴うにおい成分とATP関連化合物の変化
 開発加工科 小泉鏡子[○]・倉石 祐
- 4 養殖魚の安定生産と消費を目指したいけすやの顧客満足度調査とその活用
 普及総括班 松浦玲子[○]・御宿昭彦・二村和視
 伊豆分場 吉川康夫
- 5 駿河湾におけるサクラエビ卵の出現時期及び位置の特徴
 資源海洋科 鷺山裕史

[研修]

「研究活動における不正行為への対応等に関する規程」に基づく倫理研修

第248回 平成28年8月26日 於：富士養鱒場

[研究発表]

- 1 ニジマスで安価に遺伝子マーカー開発～効率的なゲノムワイドSNPタイピング～
 富士養鱒場 木南竜平
- 2 SNPマーカーを用いたニジマス連鎖地図の作成をQTL解析
 富士養鱒場 木南竜平[○]・渡邊 清・植松新造・
 植松久男
 深層水科 中村永介
 東京海洋大学 内野 翼・中本正俊・坂本 崇
- 3 ゲノムワイド関連解析（GWAS）によるニジマス遺伝子マーカー探索技術の開発 I
 深層水科 中村永介
- 4 大型ニジマスの脂質含有量及び脂肪酸組成について
 開発加工科 望月万美子[○]・小泉鏡子
- 5 県産農産物のプロテアーゼ活性を利用した魚肉の軟化加工技術
 開発加工科 倉石 祐[○]・山崎資之
- 6 静岡県における沿岸クロマグロの漁獲モニタリングについて
 資源海洋科 石田孝行
- 7 西伊豆産ヒジキの販売促進に向けた取り組み
 伊豆分場 鈴木勇己

第249回 平成28年11月14日 於：水産技術研究所

[研究発表]

- 1 魚肉の焙乾前乾燥および脂肪量とPAHs付着量の関係
開発加工科 鈴木進二[○]
東海大学 山梨佑希
- 2 鰹・鮪魚肉の軟化加工に関する取組み
開発加工科 山崎資之
- 3 県内のシラス水揚量とイワシ類太平洋系群の資源量の関係
資源海洋科 永倉靖大
- 4 “静岡県産サーモン”を食卓へ
富士養鱒場 木南竜平
- 5 大型ウナギの活用について
浜名湖分場 水越麻仁
- 6 組換えウナギ濾胞刺激ホルモンと黄体形成ホルモンの割合を変化させて催熟した場合の卵濾胞の発達に及ぼす影響
浜名湖分場 田中寿臣[○]
水研機構増養殖研 風藤行紀

平成28年度水産研究発表会

平成28年11月25日 於：焼津公民館大集会室

- 1 キンメダイを増やす!!
 - (1) 深層水を使ってキンメダイ親魚の養成に挑戦
深層水科 中村永介
 - (2) キンメダイの人工ふ化に成功！～種苗放流の実現に向けて～
伊豆分場 野田浩之
- 2 シラスの魚種交代？～増えるマイワシシラス～
資源海洋科 永倉靖大
- 3 やわらかい鰹・鮪を食べたい！
開発加工科 山崎資之
- 4 ウナギを大切に食べよう
浜名湖分場 水越麻仁
- 5 “静岡県産サーモン”を食卓へ
富士養鱒場 木南竜平

平成28年度日本水産学会春季大会

平成28年3月26～30日 於：東京都港区 東京海洋大学品川キャンパス
ニホンウナギの精巣発達に伴うgsdf発現解析

- | | |
|---|--|
| 北海道大学大学院 | 陳天燕 [○] ・松谷紀明・宮川寛貴・
泉ひかり・井尻成保・足立伸次 |
| 浜名湖分場 | 田中寿臣 |
| 異業種連携による大型ニホンウナギ (<i>Anguilla japonica</i>) の干物製品の開発・販売 | |
| 浜名湖分場 | 水越麻仁 [○] ・霜村胤日人・岡本一利 |
| 京丸うなぎ株式会社 | 塚本和弘・松本和美 |
| 株式会社五十嵐水産 | 五十嵐崇光・川原修身 |
| ユタカフーズ株式会社 | 羽土 真 |

	東海澱粉株式会社	小沼央人
隣接小河川におけるウナギの資源構造と水温との関連		
	富士養鱒場	鈴木邦弘 [○] ・木南竜平・佐藤孝幸・ 鈴木基生・平井一行
	水産資源課	松山 創
	伊豆分場	川合範明
	研究統括監	増元英人
秋季に河川放流した養殖ウナギの放流効果		
	富士養鱒場	鈴木邦弘 [○] ・木南竜平・佐藤孝幸・ 鈴木基生・平井一行
	水産資源課	松山 創
	伊豆分場	川合範明
	研究統括監	増元英人
アマゴ雌の性転換による雄化		
	富士養鱒場	木南竜平 [○] ・佐藤孝幸
電気伝導度測定器を用いた大型ニジマスの脂質測定法の開発		
	富士養鱒場	木南竜平 [○] ・佐藤孝幸
	大和製衡(株)	岡部修一
	富士養鱒漁協	八木俊哉

平成28年度日本水産学会秋季大会

平成28年9月8～11日 於：奈良県奈良市 近畿大学農学部奈良キャンパス
キンメダイ筋肉成分の性状および貯蔵中の核酸関連化合物の変化

	開発加工科	小泉鏡子
SNP マーカーを用いたニジマスの高密度遺伝子連鎖地図の作成とQTL解析		
	富士養鱒場	木南竜平 [○] ・渡邊 清・植松新造・ 植松久男
	深層水科	中村永介
	海洋大学	内野 翼・中本正俊・坂本 崇
組換えウナギ濾胞刺激ホルモンと黄体形成ホルモンの割合を変化させて催熟した場合の卵濾胞の発達に及ぼす影響		
	浜名湖分場	田中寿臣 [○]
	水産機構増養殖研	風藤行紀
SNP マーカーを用いたニジマスの高密度遺伝子連鎖地図の作成とQTL解析		
	富士養鱒場	木南竜平 [○] ・渡邊 清・植松新造・ 植松久男
	深層水科	中村永介
	東京海洋大学	内野 翼・中本正俊・坂本 崇
全雌集団を必要としないさけます類のXX オス作出法		
	富士養鱒場	木南竜平 [○] ・佐藤孝幸

2016年度水産海洋学会研究発表大会

平成28年11月27日 於：東京都港区 東京海洋大学
南伊豆海域におけるアワビ類加入量の変動

伊豆分場	長谷川雅俊
------	-------

水産資源課	伊藤 円
深層水科	山田博一
伊豆分場	高木康次・鈴木勇己

第20回海洋深層水利用学会全国大会

平成28年11月11日 於：富山県滑川市 滑川市民交流プラザ
海洋深層水を利用したキンメダイ飼育と親魚養成の試み

深層水科	中村永介 [○]
伊豆分場	野田浩之

平成28年度中央ブロック資源海洋調査研究会

平成28年10月28日 於：高知県高知市 高知城ホール
静岡県海域におけるもじゃこ漁獲統計の解析

伊豆分場	長谷川雅俊
伊豆半島東岸における定置網漁業の漁獲量と魚種組成の推移	
伊豆分場	鈴木勇己

平成27年度太平洋中区栽培漁業検討会

平成28年2月26日 於：神奈川県横浜市中区 神奈川自治会館
トラフグ人工種苗の放流後の生態(2011-2015年の太田川河口域放流群について)

浜名湖分場	吉田 彰
-------	------

平成28年度太平洋中区栽培漁業検討会

平成28年10月21日 於：静岡市葵区 静岡県庁
トラフグ人工種苗の放流後の生態(2016年太田川河口域放流群の採捕結果)速報

浜名湖分場	吉田 彰 [○]
水産機構増養殖研	鈴木重則
キンメダイの人工授精試験	
伊豆分場	野田浩之

平成28年度中央ブロック卵・稚仔、プランクトン調査研究担当者協議会

平成28年7月26日 於：神奈川県横浜市 国立研究開発法人水産研究・教育機構 中央水産研究所
卵稚仔調査標本に対する迅速評価手法の提案

伊豆分場	長谷川雅俊
------	-------

平成28年度瀬戸内海ブロック水産業関係研究開発推進会議生産環境部会藻類情報交換会

平成28年11月9日 於：広島県広島市 チューリッヒ東方2001
雑藻除去によるテングサ漁場の回復について

伊豆分場	高木康次
------	------

平成28年度中央ブロック水産業関係研究海発推進会議 第6回太平洋中海域トラフグ研究会

平成28年12月15～16日 於：愛知県名古屋市中区 愛知県三の丸庁舎・愛知県東大手庁舎
天然トラフグと養殖トラフグの判別について

開発加工科	小泉鏡子
太田川河口域に同時放流したトラフグ種苗2群の採捕と順化	
浜名湖分場	吉田 彰 [○]

水産機構増養殖研 鈴木重則

平成28年度水産利用関係研究開発推進会議 利用加工技術部会研究会

平成28年11月16～17日 於：神奈川県横浜市 水産研究・教育機構中央水産研究所

キンメダイ筋肉成分の性状及び貯蔵中の核酸関連化合物の変化

開発加工科 小泉鏡子

大型ニジマスの脂質含量と脂肪酸組成について

開発加工科 望月万美子

カツオ魚肉の軟化加工に関する取組み

開発加工科 山崎資之

キンメダイの貯蔵中の揮発性成分の変化

開発加工科 倉石 祐

平成27年度スルメイカ資源評価協議会

平成28年2月29日 於：神奈川県横浜市 クイーンズフォーラム会議室

1982年以降の伊豆東岸定置網におけるスルメイカ漁獲変動

伊豆分場 長谷川雅俊・鈴木勇己

東京大学大気海洋研究所共同利用シンポジウム「変動期に入った日本周辺海域の漁業資源」

平成28年11月28～29日 於：千葉県柏市 東京大学大気海洋研究所

シラス漁業から見たイワシ類仔魚の種組成の変化

伊豆分場 長谷川雅俊

第13回棘皮動物研究集会

平成28年12月3日 於：東京都港区 東京海洋大学

静岡県沼津市平沢地先において大型褐藻アントクメの付着器から採取された棘皮動物

東京海洋大学 秋田晋吾・藤田大介

伊豆分場 伊藤 円・山田博一

第4回アサリ研究会

平成28年2月23日 於：東京都千代田区 農林水産省本館

アサリの資源回復に向けた取組 ～静岡(浜名湖)の活動事例～

浜名湖分場 上原陽平

Techono-Ocean2016

平成28年10月6日 於：兵庫県神戸市中央区 神戸国際会議場

Detection of Shellfish in the Sediment by 1-MHz Ultrasound:Focusing on Weak Scatter and Incident Angle

東大生技研 菅沼大輝[○]・浅田 昭・水野勝紀

東大新領域 山室真澄

研究統括監 岡本一利

浜名湖分場 上原陽平

汽水域研究会第4回例会

平成28年1月10日 於：島根県松江市 島根県労働会館

汽水湖における「通し回遊性生物」の生態～浜名湖での漁獲物調査事例～

浜名湖分場 岡本一利[○]・田中寿臣・青島秀治

汽水域研究会2016年（第8回）大会 シンポジウム I 「浜名湖の恵みを次世代に残すために」

平成28年10月8日 於：浜松市西区 静岡県水産技術研究所浜名湖分場

浜名湖生態系サービスと水産資源

研究統括監 岡本一利

浜名湖の水産資源を未来に残すために ～アサリの資源回復の取組～

浜名湖分場 上原陽平

浜名湖の水産資源を未来に残すために ～クルマエビの栽培漁業～

浜名湖分場 吉田 彰

浜名湖の水産資源を未来に残すために ～ウナギの漁獲物調査事例～

浜名湖分場 田中寿臣[○]

研究統括監 岡本一利

水産資源課 青島秀治

USE2016

平成28年11月8日 於：釜山広域市南区 釜慶大学大淵キャンパス

Detection of Shellfish in the Sediment Using Acoustic Coring System with 1-MHz Focus Probe

東大生技研 菅沼大輝[○]・浅田 昭・水野勝紀

東大新領域 山室真澄

研究統括監 岡本一利

浜名湖分場 上原陽平

International Workshop on Portunid Crabs Aquaculture and Sustainable Fisheries 2016

March 28-29, 2016 Institute of Tropical Aquaculture, University Malaysia Terengganu, Malaysia

PRACTICE OF TAGGING AND CENSUS FOR ESTIMATING THE STOCKING EFFECTIVENESS OF JAPANESE SWIMMING CRAB (Portunus trituberculatus) IN BRACKISH LAKE HAMANA.

浜名湖分場 岡本一利

第41回全国養鱒技術協議会

平成28年7月12日 於：静岡県職員会館 もくせい会館富士ホール

電気伝導度測定器を用いた大型ニジマスの脂質測定法の開発

富士養鱒場 木南竜平

第49回養鱒振興全国大会

平成28年11月17日 於：富士宮市民文化会館小ホール

魚の鮮度とその管理

開発加工科 高木 毅

“ベジタリアン”な大型魚向けニジマス新品種の作出への挑戦

富士養鱒場 木南竜平

第8回駿河湾・伊豆海嶺地域研究集会 ー駿河湾の環境変動ー

平成28年3月10日 於：静岡市 清水テルサ
定線観測から見た静岡県沿岸の環境変動

資源海洋科

高木康次

平成28年度静岡県多自然川づくり事例発表会

平成28年9月14日 於：静岡県庁別館8階第1会議室A・B
生物から見た静岡県の多自然川づくりについて

富士養鱒場

鈴木邦弘

平成28年度全国水産試験場長会全国大会 会長賞受賞記念講演

平成28年11月17日 於：山梨県甲府市 ベルクラシック甲府
ガザミの標識技術開発、種苗放流効果および個体群動態の解明

研究統括監

岡本一利

平成28年度内水面漁連組合長会議

平成28年7月9日 於：川根温泉ホテル
長寿アユの正体に迫る～知られざるアユの生態について～

富士養鱒場

鈴木邦弘

平成28年度内水面漁連第2回組合長会議

平成28年12月13日 於：春野協働センター
アユ遊漁者の顧客満足度調査について

富士養鱒場

木南竜平

平成28年度内水面漁連役員監視員研修会

平成28年4月28日 於：労政会館
平成28年5月9日 於：プラザヴェルデ
平成28年5月12日 於：天竜川漁協
鶴田ダム湖産アユの生態と釣獲実態

富士養鱒場

鈴木邦弘

監視員さんに知っておいてもらいたい病気のこと

富士養鱒場

佐藤孝幸